



▲男女10人、力を合わせて



▲背中のかごに野菜を入れて運ぶ「いそいで収穫」



第1回旭市民体育祭

主催：旭市・旭市教育委員会 主管：旭市民体育祭実行委員会

▲飯岡小の吹奏楽



▲にっこり！ パン食い競走



▲1等賞！ 両手を上げて大喜び

共に流すさわやかな汗

第1回旭市民体育祭

市民の心の触れ合いと一体感を醸成しようと10月17日、県総合スポーツセンター東総運動場で、市民体育祭が開催されました。子どもからお年寄りまで約2,100人が15小学校区に分かれて競技を楽しみ、おなじみの短距離走や綱引きのほか、ロープジャンプや親子パン食い競争など、工夫された多彩な競技に会場内は大きな声援と笑い声が響いていました。

昼に行われたアトラクションでは、小学生による吹奏楽やダンスの発表、地元実業団チームによる模範演技などが会場を盛り上げました。競技の最後を飾るオールスターリレーでは、小学生から40歳以上までの各年代の男女が、地区の名誉を懸けてバトンをつなぎ、会場の盛り上がりも最高潮。記念すべき第1回大会は豊畑地区が総合優勝しました。



▲「がんばれー」



▲息もぴったりロープジャンプ



▲ゴール前の接戦！ 転倒しながらも1着ゴール



▲模範演技を行った「チームアイマ」の選手たち

チームアイマが全国優勝！

今回模範演技を見せてくれたチームアイマは、市内にある実業団チームです。9月24日から26日に行われた全日本実業団対抗陸上競技選手権大会では4×400mリレーで見事優勝！ 体育祭当日も、全国一の走りに、会場から大きな声援が送られていました。



▲体育祭の花、リレーは最大の盛り上がり

咲き誇るコスモスにうっとり

旭市蛇園出清水コスモスまつり

赤やピンクの色彩やかなコスモスが咲いた蛇園・出清水地区で、9月19日から10月3日までコスモスまつりが開催されました。市外から来た親子は「毎年、コスモスまつりを楽しみにしています。今度は春に菜の花が咲いたときに来てみたい」と話していました。会場を訪れた家族などは、広大なコスモス畑を眺めたり、花を摘んだりして秋の1日を楽しんでいました。



◀色とりどりのコスモスを摘む親子

自慢の愛車で海風を切って走る

ツール・ド・ちば2010

10月9日から11日の3日間で房総半島の347kmを走破する「ツールドちば」が開催されました。初日のコースは、山武市を出発して北上し、銚子市で折り返して旭市で昼食を取った後、白子町を目指す全長119km。参加した、幅広い年齢層のライダー約1,100人は、さまざまな形の自転車に乗り、市内の海辺の道を気持ちよさそうに疾走していました。



◀昼食会場の刑部岬まであと少し、坂道で顔をゆがめる参加者

自分で育てたお米の味は格別！

幽学の里で米作り交流事業「収穫祭」

10月9日、都市住民との交流を図ろうと行われている「幽学の里で米作り交流事業」の収穫祭が行われ、市内外の親子など264人が参加しました。

自分たちの作ったお米を早速食べようと、子どもたちがおにぎり作りに挑戦しました。子どもたちは炊き立てのご飯から立ち上る湯気をかぐと「いいにおい!」と、待ちきれない様子。おにぎりを作りながら、手に付いたご飯粒を食べると「おいしい!」と笑みをこぼしていました。参加者たちはもちつき体験も行ない、つくたてのもちを食べると「やわらかくて、すごく伸びる!」と舌鼓を打っていました。



▲「よいしょ!」と掛け声とともに上手にもちをつく子どもたち

荘厳な衣装で街中を行列

玉崎神社御創建1900年祭



◀多くの見物人が街中を練り歩く行列に見とれる

今年で創建1900年を迎える玉崎神社で10月10日、地元住民約250人が参加し、創建1900年祭として、御神幸や海上渡御などが行われました。稚児や氏子などが、古代ゆかしい衣装で時代絵巻を展開すると、それらを一目見ようと、沿道や飯岡漁港にはたくさんの人たちが訪れました。また飯岡地域の各地区から6基のみこしが神社前の道路に集まり、あちらこちらから威勢のよい掛け声を響かせ、祭りを盛り上げていました。

ごみの無いまちを目指して

道路などに落ちているごみを無くして「きれいな旭」を作ろうと9月26日、市内で一斉に秋のゴミゼロ運動が行われました。当日は、自分の地域をきれいにしようと、朝早くから多くの市民が参加をしました。

友達同士で参加していた小学生たちは、道路を歩きながら「ごみが落ちていないかなあ」「あっ、こっちにあったよ!」など、楽しみながらも積極的にごみ拾いをしていました。



◀草むらに隠れていたごみを見つけて拾う親子

ミス七タも交通安全の呼び掛け

秋の交通安全運動

市内の交通安全関係団体など約120人が参加して9月20日、秋の交通安全運動出動式が旭警察署で行われました。この日は、今年のミス七タ3人が警察官姿で登場。一日女性警察官として出動式・啓発活動に参加しました。出動式終了後、白パイを先頭にミス七タを乗せたオープンカーやパトカーなどで市内をパレード。参加者たちは、市内5か所に分かれてチラシやグッズなどの啓発物をドライバーや子どもたちに手渡し、交通安全を呼び掛けました。



▲一日女性警察官として参加したミス七タの3人

長寿万歳！

市内100歳訪問



◀この日が、ちょうど100歳の誕生日！

今年度100歳を迎える皆さんを祝おうと、海匠健康福祉センター長と市長らが10月18日、市内の高齢者のもとを訪れました。国からは内閣総理大臣からの祝状と銀杯、市からは長寿祝金と記念品が贈られました。今年度、旭市で100歳を迎えるのは9人。中には、酒のさかなを自分で買いに行くスーパーおじいちゃんや、草取りなど家事の手伝いをするスーパーおばあちゃんもいました。

夢 舞台に続き交流戦で「あさひ」をPR

江戸川区・旭市中学生スポーツ交流事業 卓球大会



◀館内には、音と掛け声が絶え間なく響いていました

江戸川区と旭市の中学生在がスポーツを通して親睦を深め、技術の向上を図ろうと10月9日、10日の2日間、まだ国体の余韻が残る総合体育館で卓球大会を行いました。

5年目の今回は、江戸川区から4校36人、旭市から4校40人が参加し、互いの技を競い合いました。初日の試合後は、恒例となった旭市産の新鮮食材によるバーベキューを楽しんでもらうなど、全国に旭をPRした国体に続き、江戸川区にも旭市の魅力の一端を感じてもらった2日間でした。各部門の優勝は以下のとおり。

【団体】南葛西二中（江戸川区）【個人】井上大誠（旭一中）

お じいちゃん、おばあちゃん元気だね！

旭市敬老大会

お年寄りの皆さんの健康や長寿を祝おうと、9月20日の敬老の日、東総文化会館、海上公民館、いいおかユートピアセンターの3会場で敬老大会が開かれ、1,500人以上の人が出席しました。訪れた人たちは、園児たちの遊戯や感謝の言葉に目を細めたり、文化協会などによる演芸にリズムを取ったり、楽しい時間を過ごし、どの会場も笑顔でいっぱいでした。



◀園児からメッセージカードをもらい、目を細めます

灼 熱の大会 F C あさひが奮起

飯岡しおさいカップ

スポーツ少年団飯岡F Cが主催するサッカー大会が9月12日、いいおかふれあいスポーツ公園で開催され、近隣市町の16チームが低学年・高学年の部で熱戦を繰り広げました。

高学年の部では、F C あさひが香取市の水郷SSSとの決勝を接戦の末PK戦で制し見事優勝！主催した飯岡F Cも善戦し、高学年の部3位となりました。



◀F C あさひ



◀飯岡 F C

夢の大会に沸く

ゆめ半島千葉国体卓球競技会

千葉国体卓球競技会が9月29日から10月4日まで、旭市総合体育館で行われました。全国から集まった一流選手のプレーに、連日会場は、喚声と熱気に包まれていました。体育館の外に設けられた交流テントでは、地元の特産品などの販売のほか、ボランティアなどによる新鮮野菜やとん汁、米粉ケーキなどが無料で提供され、選手や観客のうれしい笑顔を誘っていました。

卓球関係者や大勢のボランティアなどの協力の下、旭市で初めて実現した夢の国体。閉会式では、木村競技会副会長が「旭市の皆さんのおかげで大会は大成功でした。感謝します」と挨拶していました。



▲全国から集まった超一流の選手たち



▲大盛況の交流テント

英語発表リズム良く

第14回旭市中学校生徒英語発表会

飯岡ライオンズクラブが主催する中学校生徒英語発表会が9月24日、飯岡保健センター多目的ホールで開催され、市内の中学生33人が得意の英語を披露しました。どの生徒も英語の発音やイントネーション、言葉のリズムに注意しながら、時折ジェスチャーを交え物語や自分の考えなどを英語で発表。流れるように次々と発せられる言葉に、会場の父兄や教師たちもじっと耳を傾けていました。



▶大きなジェスチャーで発表する生徒



▲息が詰まるような緊迫したラリーの連続



▶気持ちを前面に出しながらの気迫のこもったプレー（上山口県・吉田選手、下青森県・大矢選手）



▲ガッツポーズ！ 応援にも力が入る



▲勝利のVサイン チームちば少年女子チーム（右 林選手／旭一中）

卓球だけじゃない！ 市内の大勢の選手が代表に選ばれ、千葉国体を盛り上げました

成年男子400mハードル：4位 今関雄太（口）、少年男子やり投げ：10位 滑川晃平（櫻井）、少年男子ボートシングルスカル：5位 古橋龍也（萬力）、ホッケー成年女子 三枝真理子（イ）、成年女子ソフトボール 平谷美咲（倉橋）、弓道少年男子近的：2位 大谷隆介（二）※市内在住、在勤、出身者の千葉県代表選手・敬称略

宇宙へのあこがれ 溢れる好奇心

宇宙開発と私たちの未来

日本には、2人しかいないフライトサーजनと呼ばれる宇宙飛行士専門の医師。そのうちの一人、旭市出身の嶋田和人^{かずひと}さんを講師に迎え10月3日、商工会館会議室で講演会が行われました。嶋田さんは、国際宇宙ステーションに5か月間滞在した野口聡一さんのフライトサーजनとしても活躍。会場に集まった約80人は、宇宙開発の最前線で働く嶋田さんの話を興味深そうに聞き入っていました。



▶講演する嶋田和人さん